

# 151 ネムグリガイ

(オオノガイ科)

兵庫県ランク:B

*Zachisia zenkewitschi*

環境省ランク:指定なし

## 種の概要

海草のアマモやスガモなどの地下茎内に穿孔し、石灰質の生管を作つてすむ珍奇な生態をもつ。殻板はカーブした二等辺三角形形状、軟体は細長い幼虫形をし、後端には分岐した水管がある。極端な性的二型を示し、雄は矮小で雌に寄生する。国内では長くその存在が知られていなかったが、2006年に宮城県で見つかつて以来、西日本でも確認されるようになった。自生しているアマモからの採取は困難であるが、漂流・漂着アマモの茎部からは比較的高確率で見つかる。このことは、本種の穿孔により縁辺部が枯死して地下茎が切れてしまい、海面に浮遊してしまうためと考えられ、加えて、本種の分布拡散の手段とも考えられる。

## 主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○	○		○

## 県内分布

たつの市、洲本市、淡路市

## 県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。県内では2009年に洲本市由良湾のアマモの地下茎に穿孔している本種が発見された。その後淡路島北部西岸の播磨灘側のアマモ場より生息を確認する。1つの地下茎に小さい個体では1~3個体穿孔している場合がある。播磨灘西部のアマモ場においてもごく少数が確認された。

## 保護上の留意点

既知産地のアマモ群落は勿論、本種の生息が未確認であっても多様性の高いアマモ群落は維持し、過去の育生地となっている場所では生育地を再造成するなどの措置を施すことが望ましい。本種を採集するために生育中のアマモをむやみに掘り起こすことは他の生物にも支障を来たすので避けること。



写真提供：川淵千尋



写真提供：川淵千尋

【執筆者】 増田修